

今月のトピックス

- 成人男性を中心に風しんが流行しています。
- ヘルパンギーナの報告数が増加しています。
- マイコプラズマ肺炎の報告数が昨年と比べて多い状況が続いています。
- 夏休みの海外旅行先における感染症に注意が必要です。

全数把握の対象

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: 7 件(O26 VT1 4 件、O157 VT2 2 件、O157 VT1VT2 1 件)の報告がありました。このうち、O26 VT1 の 3 件は同一家族で、原因は現在調査中です。他の事例については、明らかな共通食や同じ店舗の利用などは現在のところ不明です。本疾患は例年夏季に感染者数のピークを迎えるので今後の注意がひきつづき必要です。  
 啓発用チラシ「O157 に注意しましょう」<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>
- 2 デング熱: 1 件の報告がありました。渡航先(タイ)での感染が推定されています。近年、日本では年間発生数が増加傾向にありますが、すべて日本国外での感染で、タイ、インド、インドネシア、フィリピン、ミャンマー、ラオス、カンボジアなどでの感染が多く報告されています。
- 3 マラリア: 1 件の熱帯熱マラリアの報告がありました。渡航先(ガーナ)での感染が推定されています。

海外での感染症予防情報掲載ホームページ

これから海外旅行に出かける人が増えることが予想され、感染症に注意が必要です。

夏休みに海外へ渡航される皆さまへ(厚生労働省検疫所)

<http://www.forth.go.jp/news/2012/07091539.html>

2012 年夏休み期間中における海外での感染症予防について(厚生労働省)

[http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/travel/2012summer.html](http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/travel/2012summer.html)

- 4 レジオネラ症: 肺炎型 2 件の報告がありました。どちらも 70 歳以上の高齢者で、尿中抗原陽性のため診断されましたが、感染の原因は不明でした。
- 5 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症 1 件の報告がありました。国内での感染が推定されていますが、感染経路は不明です。
- 6 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む): AIDS 1 件、無症候期 1 件の報告がありました。AIDS の症例では、同性間性的接触による感染が推定されており、感染地域は不明です。無症候期の症例では、異性間性的接触による感染が推定されており、インドネシアでの感染が推定されています。
- 7 パンコマイシン耐性腸球菌感染症: 1 件の VanB 型の報告がありました。現在、感染経路等を調査中です。
- 8 風しん: 11 件の報告がありました。6 月以降、市内の届出が急増しており、既に昨年 1 年間の約 1.5 倍(24 件)となっています。流行の中心は予防接種歴の無い、あるいは不明の 30~40 代の男性ですが、10~20 代でも報告されています。風しんの免疫を持たない女性が妊娠中(特に妊娠初期)に感染すると、白内障、先天性心疾患、難聴を主な症状とする先天性風しん症候群の児が生まれる可能性があります。流行を抑えるためには、女性だけでなく、男性の予防接種も重要です。



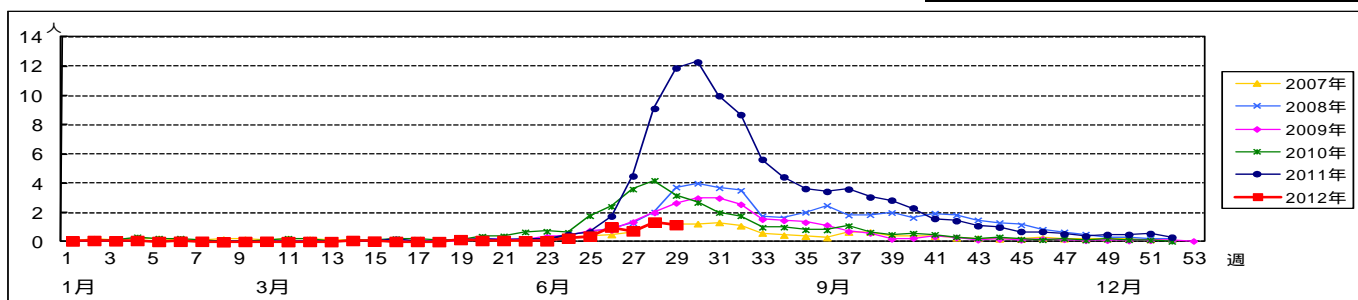
横浜市感染症臨時情報: <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/>

9 麻しん:5件(40代2件、20代1件、幼児2件)の報告がありました。幼児2件では、どちらも予防接種でMR1期接種済みでしたが、他は予防接種歴が無いが、不明でした。全例で感染経路は不明で、周囲に他の感染者はいませんでした。麻しんの届出後に風しんの診断に差し替えになるケースもあります。麻しんの検査診断にあたっては国立感染症研究所の「[麻しん検査診断アルゴリズム](#)」をご参照ください。また、診断の確定には適切な時期のPCR検査が有用です。

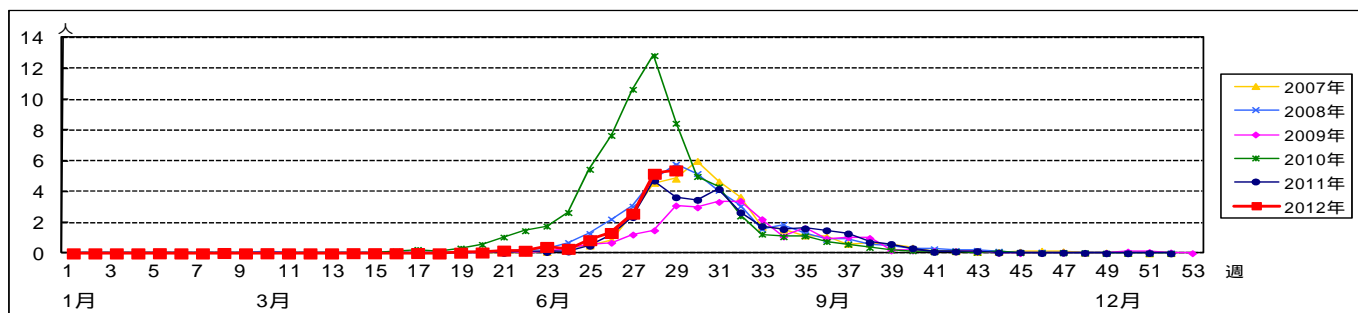
## 定点把握の対象

平成24年 週 - 月日対照表	
第26週	6月25～7月1日
第27週	7月2～8日
第28週	7月9～15日
第29週	7月16～22日

1 手足口病:市全体で第29週 1.18 とやや増加しています。泉区 9.00 瀬谷区 2.00 で警報レベルとなっています。例年夏季に増加する疾患ですが、現在のところ、例年に比べ少ない報告となっています。



2 ヘルパンギーナ:市全体で第29週 5.38 と増加しています。神奈川区 11.80、金沢区 8.00、緑区 12.00、青葉区 6.14、栄区 8.00、泉区 7.00、瀬谷区 13.50 と7区で警報レベルとなっています。



3 性感染症:6月は、性器クラミジア感染症は男性が15件、女性が11件でした。性器ヘルペス感染症は男性が8件、女性が14件です。尖圭コンジローマは男性3件、女性が0件でした。淋菌感染症は男性が11件、女性が1件でした。

4 基幹定点週報:マイコプラズマ肺炎は全国的に流行しており、特に昨年度末は1.60～1.40(例年定点あたり0.2～0.6程度で推移)と増加しました。最近では、第26週 0.83、27週 0.95、28週 0.91、29週 0.84 と落ち着いてきたものの、例年を上回る状態が持続しています。横浜市でも第26週 1.67、27週 1.00、28週 1.50、29週 1.50 と、前シーズンの第26週 0.66、27週 0.33、28週 0.33、29週 0.67 をやや上回っています。第28週に無菌性髄膜炎(30代女性、病原体は未検出)が1件報告されました。第29週には細菌性髄膜炎(40代女性、髄液から原因菌検出されませんでした)が1件報告されました。クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

5 基幹定点月報:6月は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症4件、薬剤耐性緑膿菌感染症1件で、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。  
 横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>